

花壇づくりワークショップ ニュースレター

Vol. 07

H29年3月15日号



チューリップフェアに向けた 花壇の施工を行いました

4月から始まるチューリップフェアに向けて、花壇の内容を更新しました。小雨がぱらつく中の作業になりましたが、手際よく植え付けを行うことが出来ました。

日時：平成29年3月15日(水)
9:30~12:00
場所：馬見丘陵公園
(花サポーター花壇)
参加者：23人

◆当日のスケジュール◆

9:30 全体説明、班分け
9:45 既存苗の剪定説明
10:45 苗の配置、植付
12:00 終了



▲植付直後の花壇



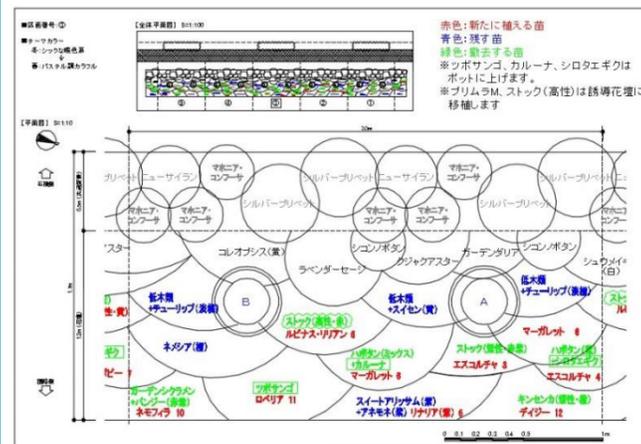
▲花壇イメージ図



春花壇のコンセプト

春らしさの演出として、暖色系からパステルカラーにイメージを変えるために、リナリアやネモフィラなどの淡い色の花を多く取り入れたデザインとしました。球根類もこれから花が咲きはじめるので、冬から一転、柔らかな雰囲気生まれ変わります。

パンジーやスイートアリッサムなどの冬に植えた苗も、暖かくなると元気を取り戻し、新たに花を付け始めます。



▲花壇計画図面



秋・冬花壇と春花壇の施工の違い

冬花壇から春花壇に更新するにあたり、実際の現場では、当初計画していた予定通りにできない問題が2つありました。1つ目は、コンテナの中に植えた球根と他の苗の根が絡み合い、抜く予定の苗を抜けないということです。そこで、抜く予定の1つだったクリスマスローズはそのまま残すことにしました。コンテナの中はかなり密度が高いため、抜く作業はとても慎重に行いました。苗の根の範囲を確認し、隣の苗の根を切らないように気を付けながら移植ごてを使って四方を根切りしました。抜いた苗は宿根草(ツボサンゴ、カレーナ、シロタエギク)なので、ポットあげして公園内で再利用してもらうことになりました。



▲移植ごてで苗の四方を根切り



▲苗のポットあげ(ツボサンゴ)



▲図面をチェックしながら配置確認



▲苗の配置

2つ目の問題は、現在の苗の大きさと成長したときの大きさが異なるということです。秋、冬の施工の時は、ある程度成長した苗を手に入れたので、配置しながら調整することが出来ましたが、春に植える苗はこれから成長するものが多いので、実際の苗を見ながら配置をしても、高さ調整が出来ませんでした。これは図面を見ながら、大きくなる苗、ならない苗を確認し、配置を行いました。各班、図面を見る人、苗を並べる人、数量をチェックする人など役割分担が自然とできていて、とてもスムーズに作業を行うことが出来ました。気候次第にはなりますが、これから苗は急速に成長します。チューリップフェアが始まるまで、観察しながら変化を楽しみましょう。



誘導花壇のデザイン

ストックやプリムラなど、花色の濃いものは花壇から抜く計画としていましたが、中にはまだ花期の終わっていないものや、これから花が咲くものがあるので、誘導花壇に移植して再利用しました。使う苗はその場で決定したので、苗の高さや色合いなどを見ながら、みんなで協力して即興でデザインしました。

寝かせて使用していた壺型のコンテナを立て、新たにコンテナを追加して、それを囲むように背の高いものを後方、地を這うものを前方に配置しました。花サポーター花壇を挟んで、誘導花壇は北側と南側で線対象になっています。コンテナの中にはまだ花芽が付いていませんが、壺型コンテナは花が丸く広がるように、波型コンテナは花がトライアングル型となるようにイメージしています。



▲誘導花壇(北)